

新型コロナウイルス感染拡大状況下における  
エイズ・性感染症の検査機会提供のあり方

国立病院機構名古屋医療センター  
横幕能行

# 発表内容

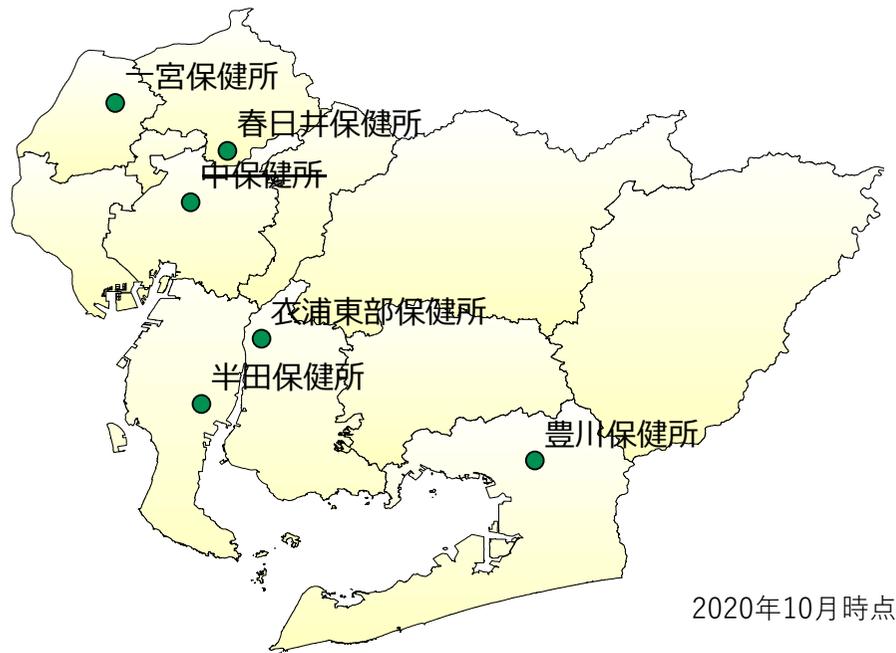
1. 新型コロナ感染拡大の保健所エイズ等検査とエイズ診療への影響
  - ✓保健所等でのエイズ等検査への影響
  - ✓エイズ診療への影響
  - ✓愛知県におけるモデル事業の実施結果
2. 新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究について
  - ✓背景と目的
  - ✓検査提供方法と保健所エイズ等検査との比較
  - ✓結果
3. まとめ

# 発表内容

1. 新型コロナウイルス感染拡大の保健所エイズ等検査とエイズ診療への影響
  - ✓保健所等でのエイズ等検査への影響
  - ✓エイズ診療への影響
  - ✓愛知県におけるモデル事業の実施結果
2. 新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究について
  - ✓背景と目的
  - ✓検査提供方法と保健所エイズ等検査との比較
  - ✓結果
3. まとめ

# 愛知県の保健所エイズ検査の実施状況

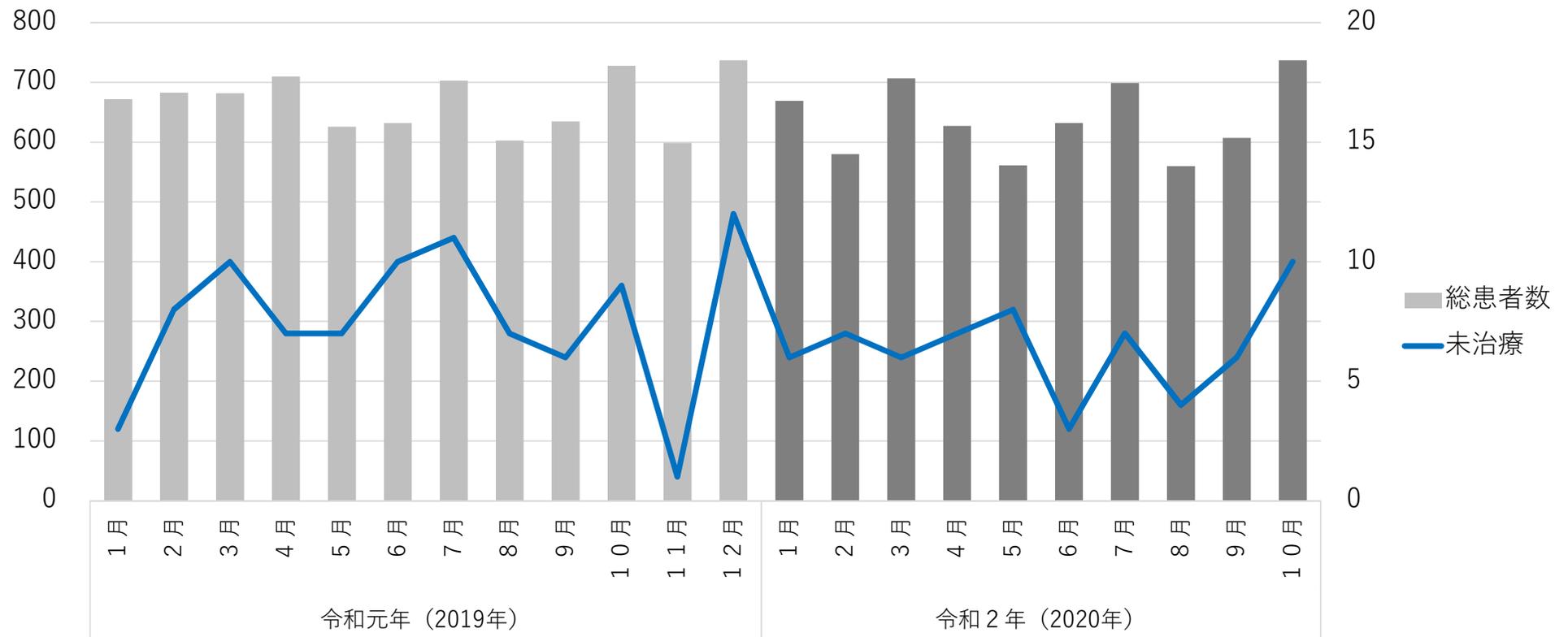
2020年8月末時点



地区	保健所名	通常検査	即日検査	夜間検査
尾張西部	一宮	○	○	○
	津島	X		
	江南	X		
尾張東部	清須	X		
	瀬戸	X		
	春日井			
知多半島	半田	○	○	○
	知多	X		
西三河	衣浦東部(刈谷)	○	○	○
	西尾	X		
東三河	新城	X		
	豊川	○	○	
名古屋	16保健センター	X	X	X (即日)
	豊橋市	X	X	
	岡崎市	X	X	X (即日)
	豊田市	X	X	X (即日)

# 名古屋医療センターのエイズ診療の状況

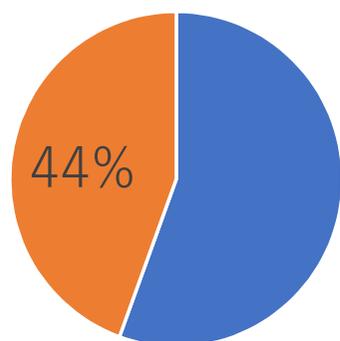
月別の定期受診者数・未治療新患者数



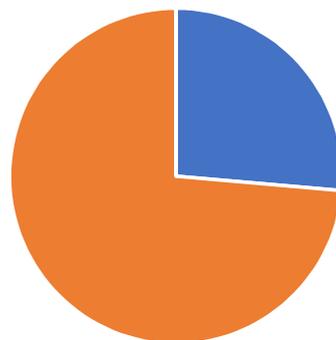
# 名古屋医療センターのエイズ診療の状況

令和元年・令和2年の新規未治療患者の初診時CD4数・病期・検査機会（紹介元）別人数

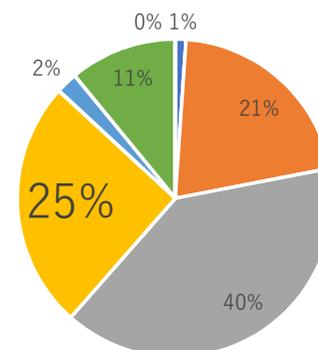
令和元年



初診時CD4数

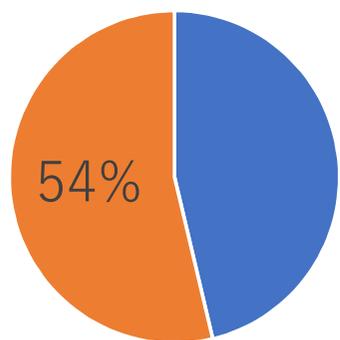


初診時病期

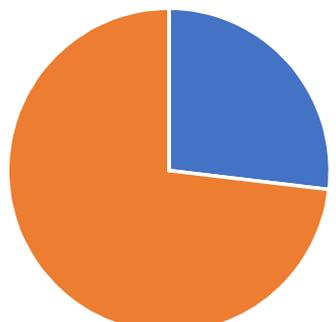


検査機会（紹介元）

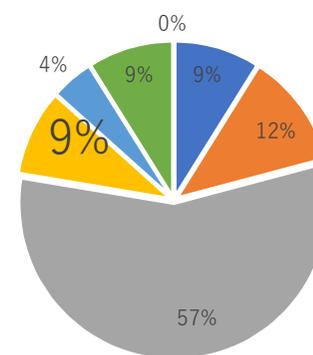
令和二年



■ 200以上



■ AC



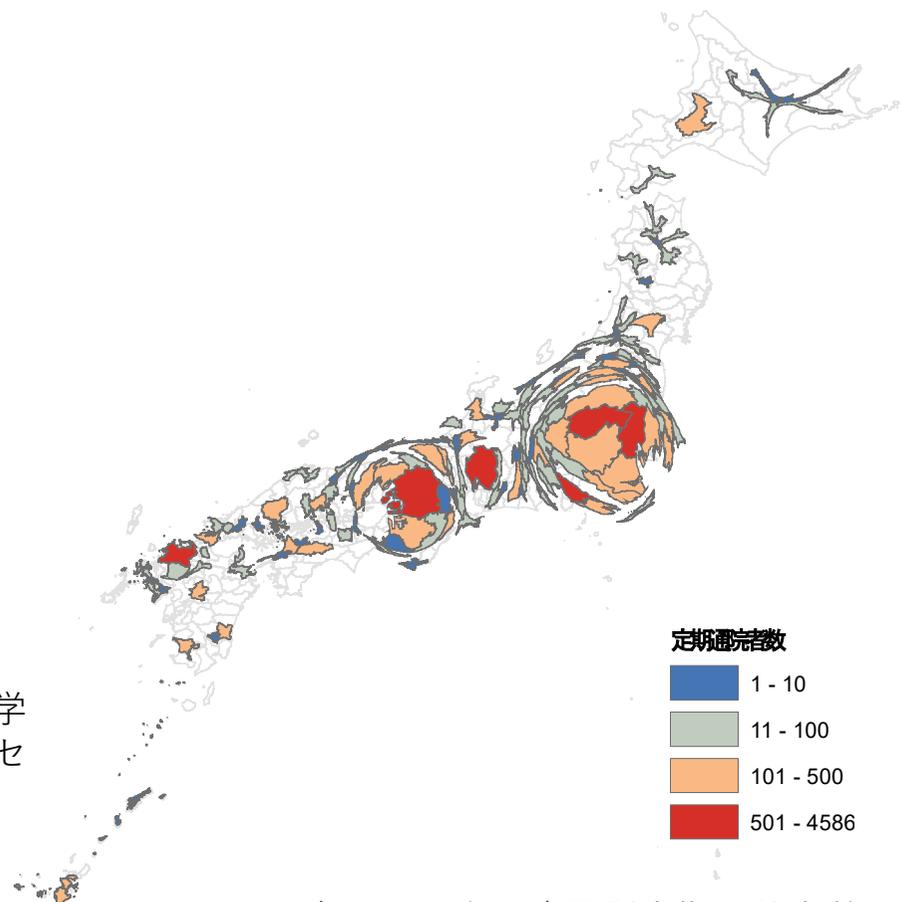
- ブロック拠点病院
- 拠点病院
- 一般病院・クリニック
- 保健所
- その他施設
- その他
- 不明

# 令和元年・令和2年の全国主要拠点病院の診療状況

- 調査施設：ACCと8ブロック拠点病院\*
- 調査項目（令和1年～2年）
  - ✓ 月別定期受診者数
  - ✓ 月別未治療新規感染者数
  - ✓ 新規感染者について以下の事項
    - 初診時CD4数
    - 初診時病期
    - 感染判明契機（受検場所）

## \*8ブロック拠点病院

北海道大学医学部附属病院、仙台医療センター、新潟大学医歯学総合病院、石川県立中央病院、名古屋医療センター、大阪医療センター、広島大学病院、九州医療センター

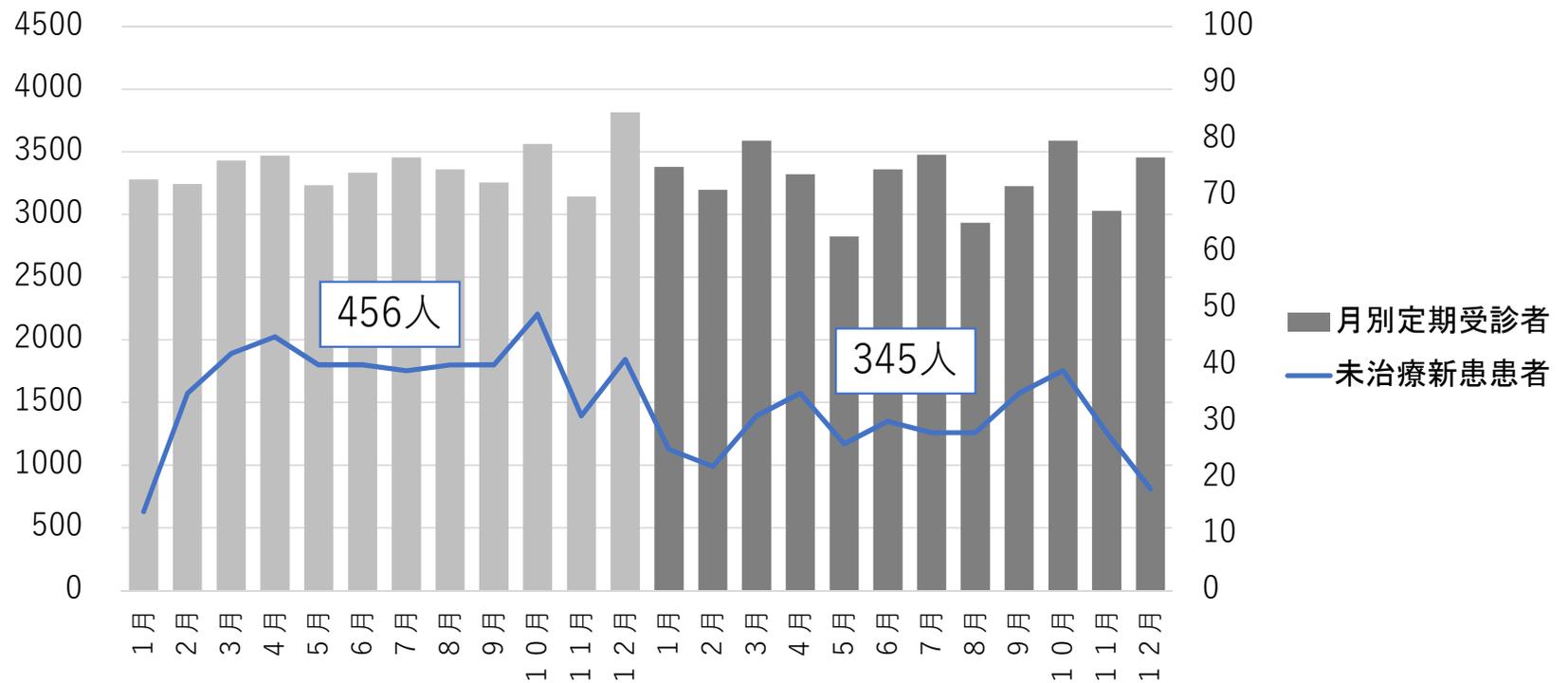


全国の二次医療圏別定期通院者数  
（エリアカルトグラム）

# 全国主要診療施設のエイズ診療の状況

月別の定期受診者数・未治療新患者数

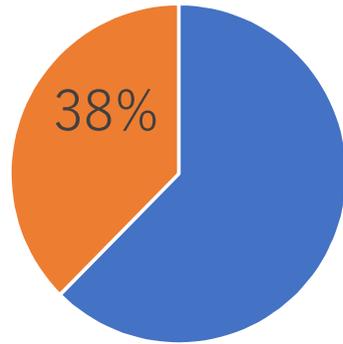
主要9施設の定期通院者数・新規感染者数



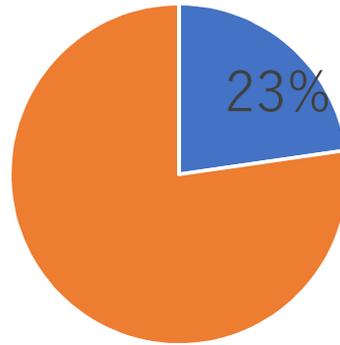
# 全国主要診療施設のエイズ診療の状況

令和元年・令和2年の新規未治療患者の初診時CD4数・病期・検査機会（紹介元）別人数

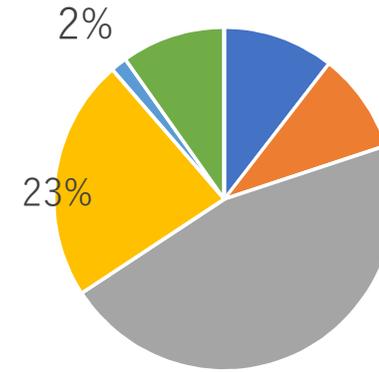
令和元年



初診時CD4数

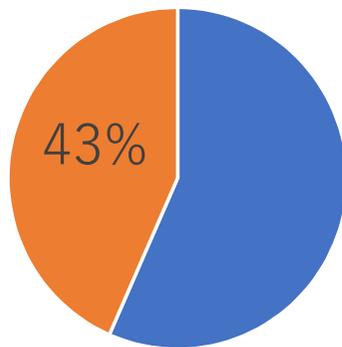


初診時病期

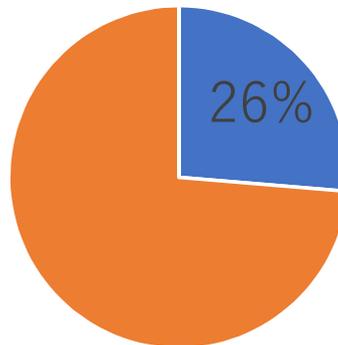


検査機会（紹介元）\*

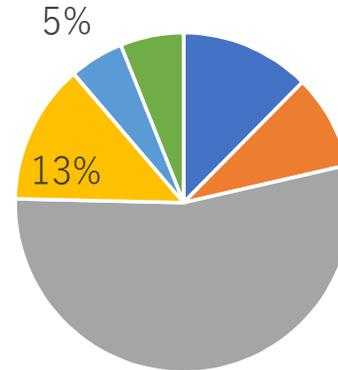
令和二年



■ 200以上 ■ 200未満



■ AIDS ■ AC ■ 不明



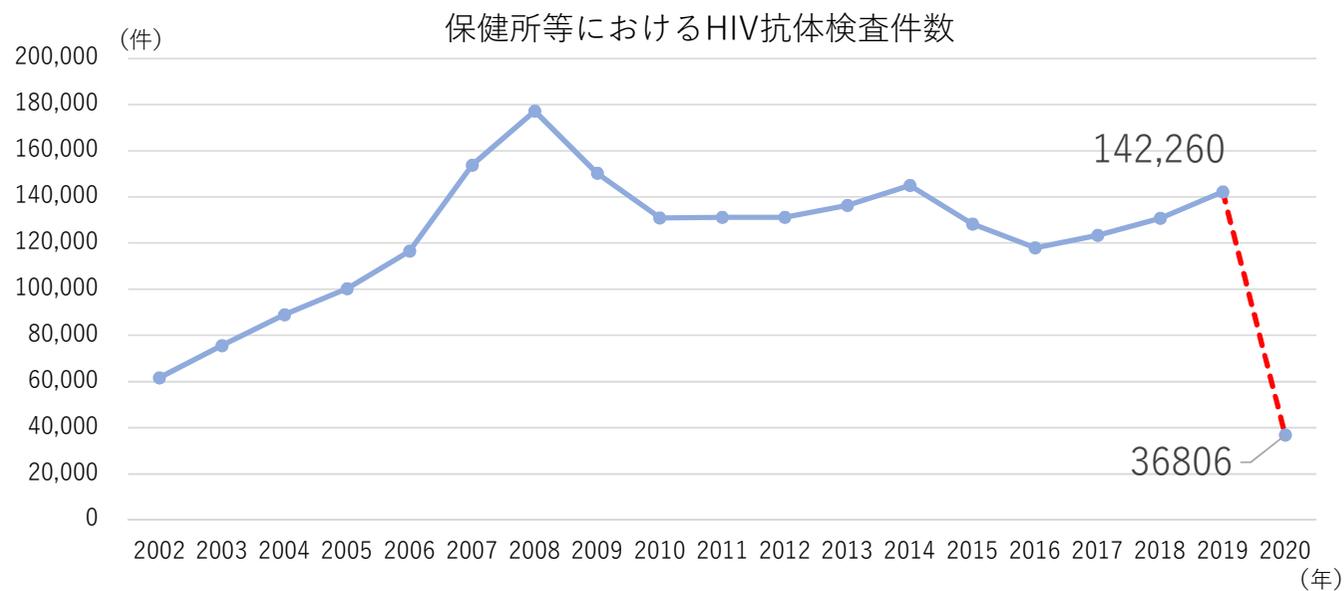
- ブロック拠点病院
- 拠点病院
- 一般病院・クリニック
- 保健所
- その他施設
- その他
- 不明

\*  $\chi^2$ 検定を行ったところ、検査機会（紹介元）で有意差あり ( $p < 0.01$ )

# 検査・相談件数の概況

令和2年1月～6月、エイズ動向委員会報告より

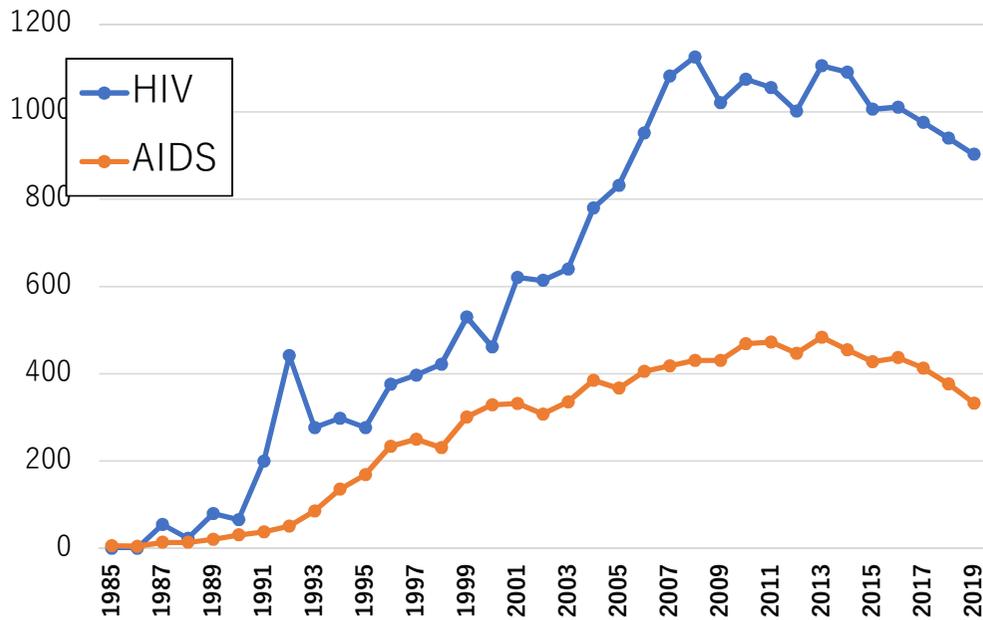
- 保健所等におけるHIV抗体検査件数は、前年同時期に比べ、第1四半期(-26%)、第2四半期(-73%)共に大きく減少
- 保健所等における相談件数についても前年同時期に比べ、第1四半期、第2四半期共に減少



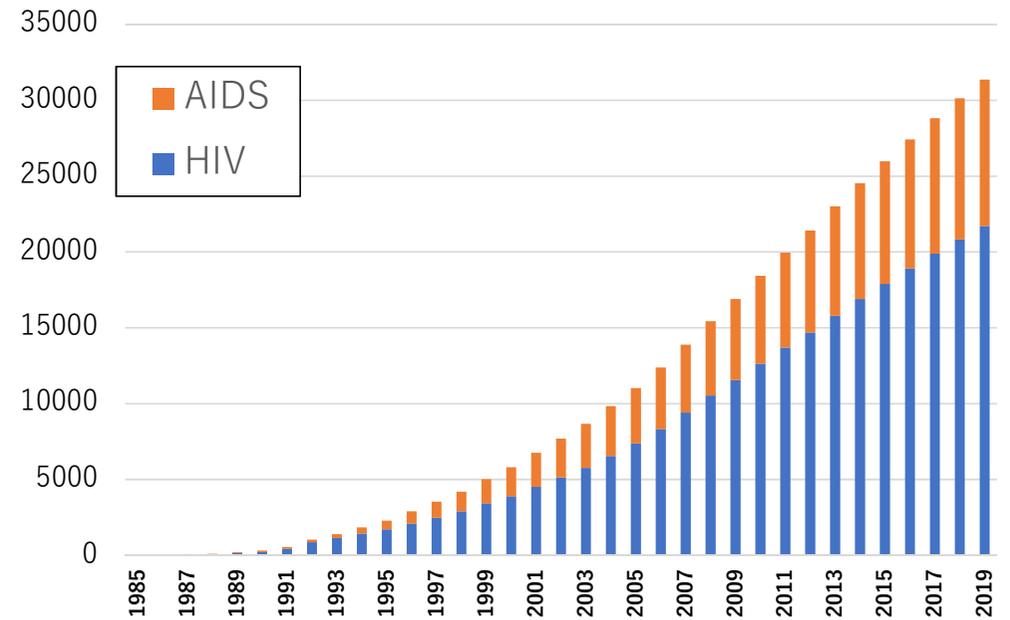
エイズ動向委員会資料より

# 我が国のHIV感染者/AIDS患者の発生動向

## 新規HIV感染者およびAIDS患者報告数の年次推移

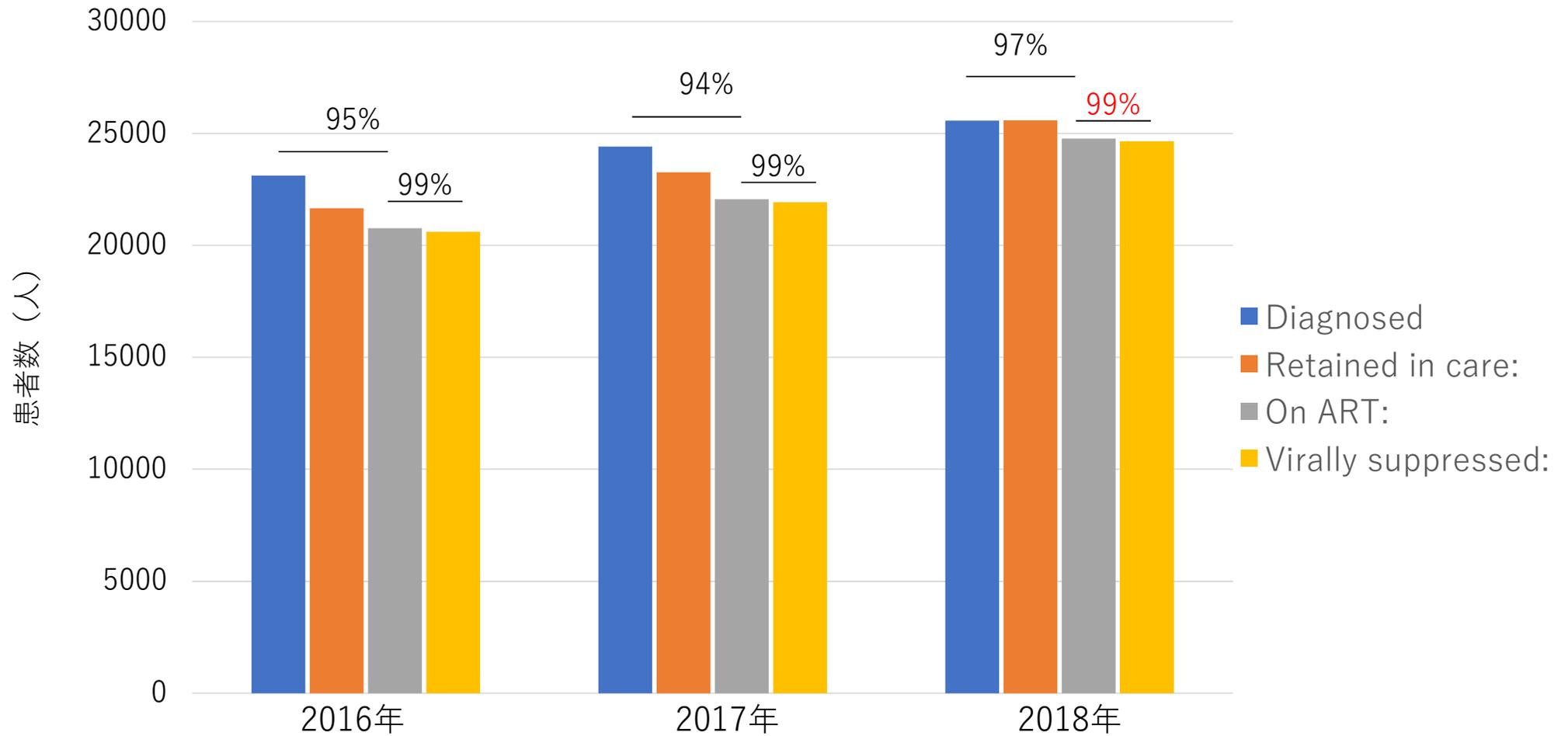


## 累積報告数



# 抗HIV療法の治療成績

(2020年3月末時点の集計結果、拠点病院以外の施設も含む)



# 職域健診HIV・性感染症検査モデル事業

(平成30年)

- 目的
  - ✓職域における健康診断の機会を利用し検査の利用機会を拡大
  - ✓HIV・性感染症の早期発見・早期治療・予防の促進
- 事業の実施主体
  - ✓重点的に連絡調整すべき都道府県等
- 検査の項目
  - ✓HIV抗体検査(抗原抗体スクリーニング検査等)
  - ✓梅毒検査(梅毒血清反応検査)

# 愛知県におけるモデル事業の実施

職域でのエイズ等検査機会提供の枠組み

- 「性感染症に関する特定感染症予防指針」（2018年1月）
  - ✓ 性感染症の予防には、正しい知識とそれに基づく注意深い行動が重要
  - ✓ 感染する又は感染を広げる可能性がある者への普及啓発及び性感染症の予防を支援する環境づくりが重要
  - ✓ 「2,発生の予防及び蔓延の防止」において、性感染症がある等の情報について、国及び都道府県等は民間企業とも連携しながら普及啓発に努めるべき
- ➔ 「職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制」に係る研究が必要

# 愛知県におけるモデル事業の実施

職域でのエイズ等検査機会提供の枠組み

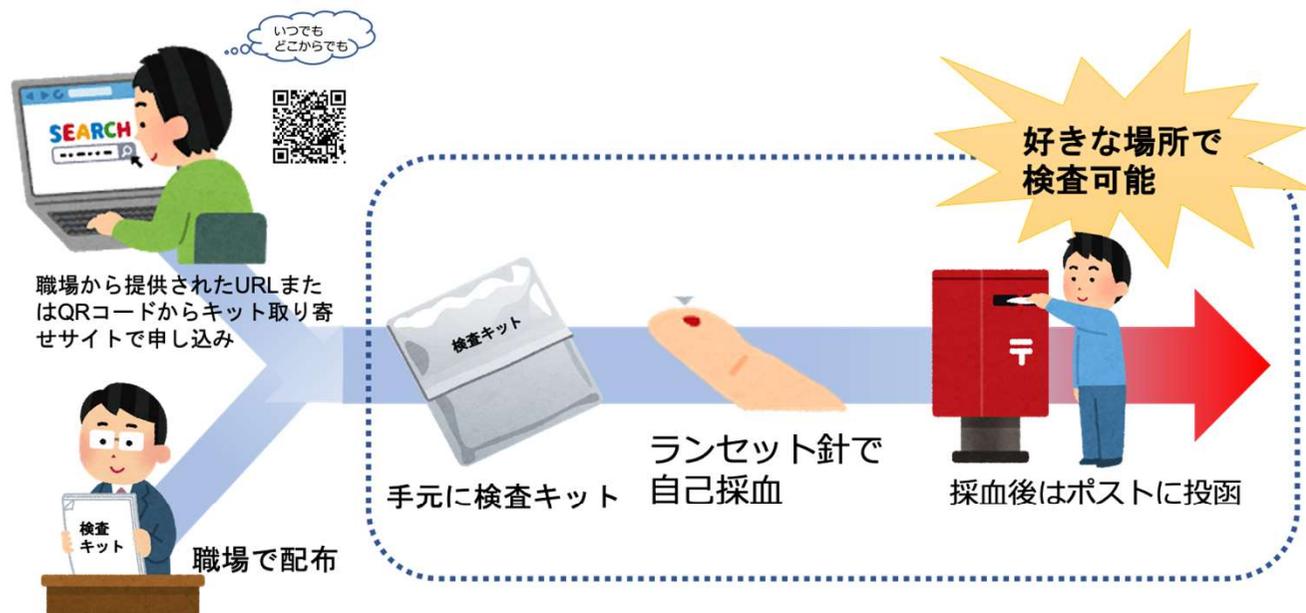
- 研究目的

企業及びその被保険者に対し普及啓発を行った上で、企業等の被保険者のうち希望する者(以下受検者)に対し梅毒とエイズ検査の実施を試みその結果から保健所検査を補完する事業となり得るか検討➡ HIV企業検診の実現のための実践研究

- 実施の枠組み

- ✓ 事業主体は愛知県
- ✓ 「職域職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなH I V検査体制の研究」班と連携
- ✓ 名古屋医療センターに業務委託
  - ➡ 「保健所におけるHIV抗体検査の実施について（通知）」に沿う
- ✓ 検査を郵送検査企業に委託
  - ➡ 「職場におけるエイズ問題に関するガイドライン」に沿う
- ✓ 医療機関への橋渡しを郵送検査企業と陽性者支援団体（NPO）に依頼
  - ➡ 受検者の支援充実、陽性時の医療機関へのつなぎを強化

# モデル事業による職域での検査機会提供



検査キット郵送封筒と検査キットの外観

アンケート設計の狙い（研究仮説）

- 本プログラムが保健所検査の届きにくい層への補完となっていることの確認
- 受検経験（初回 vs 2回目以上）を通して HIV に関する正しい知識が向上する、もしくは反対に知識の向上が次の受検へと良い循環を及ぼすこととの関連性評価
- 郵送検査キットではなく、健診時の同時検査のニーズもそれなりにあることの確認
- 先行研究との比較を通じた本プログラム参加者特性の把握

以下アンケート

Q1. あなたの性別をお答えください。

- (1) 男性          (2) 女性          (3) その他

Q2. あなたの年齢をお答えください。

(      ) 歳

Q3. 現在、あなたが同居している人は誰ですか。（複数回答可）

- (1) ひとり暮らし (2) 夫・妻 (3) パートナー・恋人 (4) 友人 (5) 子 (6) 父母  
(7) 祖父母 (8) 兄弟 (9) その他

Q4. これまでにあなたは本プログラムを利用したことがありますか。

- (1) はい          (2) いいえ          (3) 答えたくない

Q5. これまでにあなたは本プログラム以外で HIV の血液検査を1度でも受けたことがありますか。

- (1) はい          (2) いいえ          (3) わからない (4) 答えたくない

Q6. あなたが本プログラム以外で HIV の血液検査を直近で受けたのはいつ頃ですか。

【Q5で「はい」と回答した人のみお答えください】

- (1) 1年以内      (2) 1~3年以内      (3) 3年以上前      (4) わからない      (5) 答えたくない

Q7. 会社の健診時に HIV の血液検査を実施してほしい(費用の負担は考慮しないでお答えください)

- (1) 思う          (2) やや思う      (3) あまり思わない (4) 思わない      (5) わからない

Q8. 以下の HIV に関する内容はすべて正しいことを述べています。あなたをご存知でしたか。

- (1) 知っていた          (2) 知らなかった

- (1) HIV は、感染している人と握手をしても感染しない
- (2) HIV は、感染している人と話をしても感染しない
- (3) HIV は、感染している人と一緒に仕事をしても感染しない
- (4) HIV は、感染している人と食器を共用しても感染しない
- (5) HIV は、感染している人とキスをしても感染しない
- (6) HIV は、感染している人と一緒に温泉などに入浴しても感染しない
- (7) HIV は、感染している人と無防備に性行為を行った場合、感染することがある
- (8) HIV は、感染している人とカミソリやピアス、注射器などを共用した場合に感染することがある
- (9) HIV は、感染している人の血液や精液に触れることで感染する
- (10) HIV は、性行為の際にコンドームを使用すれば感染の可能性を低くできる
- (11) HIV は、適切に治療することにより他の人へ感染させる危険性を減らすことができる
- (12) HIV は、蚊によってうつされることはない
- (13) HIV は、血液検査によって感染しているかどうか分かる
- (14) 保健所では無料で HIV 検査が受けられる
- (15) HIV には現在、感染予防のためのワクチンがない
- (16) 健診などで異常がなくても、HIV に感染していることがある
- (17) 特に自覚症状がなくても、HIV に感染していることがある
- (18) 健康そうに見えても、HIV に感染していることがある

Q9. 自由意見

ここまで

# モデル事業結果①

正規従業員の約10%が検査機会を利用

## • ~令和元年度

- 5業種の9社の1,913人に郵送検査キットを提供し994人が受検
- 全従業員配布方式では、715人に配布し163人が受検（使用率22.8%）
- Web申し込み方式では、1198人が取り寄せ831人が受検（使用率69.4%）
- モデル事業参加企業の従業員に不利益なし

## • 令和2年度

- 令和元年度にモデル事業に参加した企業のうち4社で継続実施
- 509人に郵送検査キットを提供し301人が受検
- 全従業員配布方式では、100人に配布し27人が受検（使用率27.0%）
- Web申し込み方式では、409人が取り寄せ274人が受検（使用率67.0%）
- モデル事業参加企業の従業員に不利益なし

## モデル事業の結果② 受検者背景

令和2年度に受検した301人中アンケートに回答があった157人（中間集計）

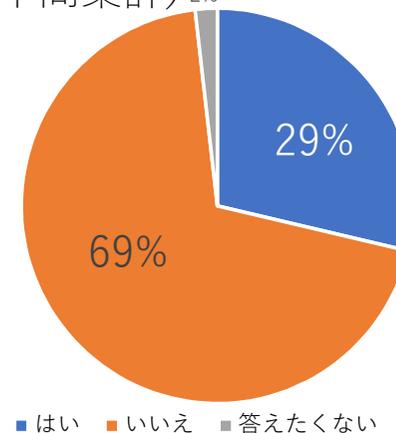
性別,n(%)	
男性	107(65.2)
女性	57(34.8)
年齢(歳)	
中央値 (range)	41(22-61)
同居,n(%)（複数回答）	
ひとり暮らし	60(36.6)
夫・妻	82(50)
パートナー・恋人	8(4.9)
友人	0(0)
子	54(32.9)
父母	10(6.1)
祖父母	0(0)
兄弟	2(1.2)
その他	2(1.2)

## モデル事業の結果③アンケート結果

令和2年度に受検した301人中アンケートに回答があった157人（中間集計）<sup>2%</sup>

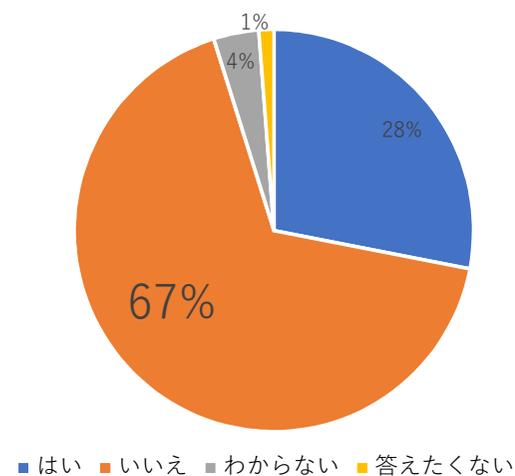
これまでにあなたは本プログラム（本研究）を利用したことがありますか。

⇒29%がリピーター。およそ70%が新規。  
新たな受検者を呼び込むことができた。



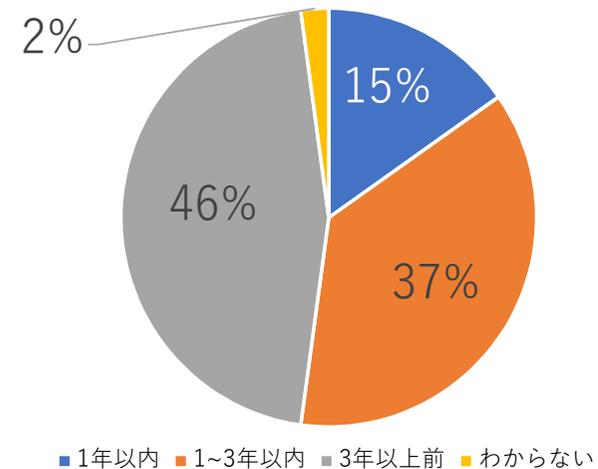
これまでにあなたは本プログラム（本研究）以外でHIVの血液検査を1度でも受けたことがありますか。

⇒67%が人生初のHIV検査



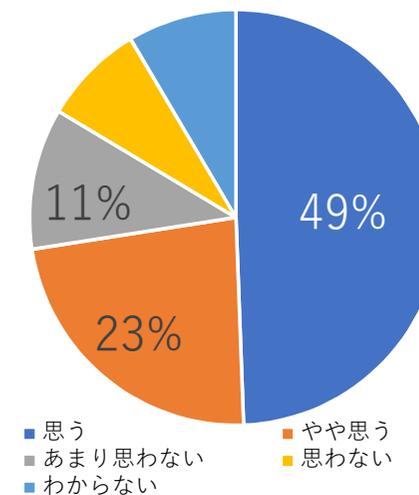
あなたが本プログラム(本研究)以外で  
HIVの血液検査を直近で受けたのはいつ頃ですか。  
(前問で「はい」と回答した人のみお答えください)

⇒半数は定期的に受検している。



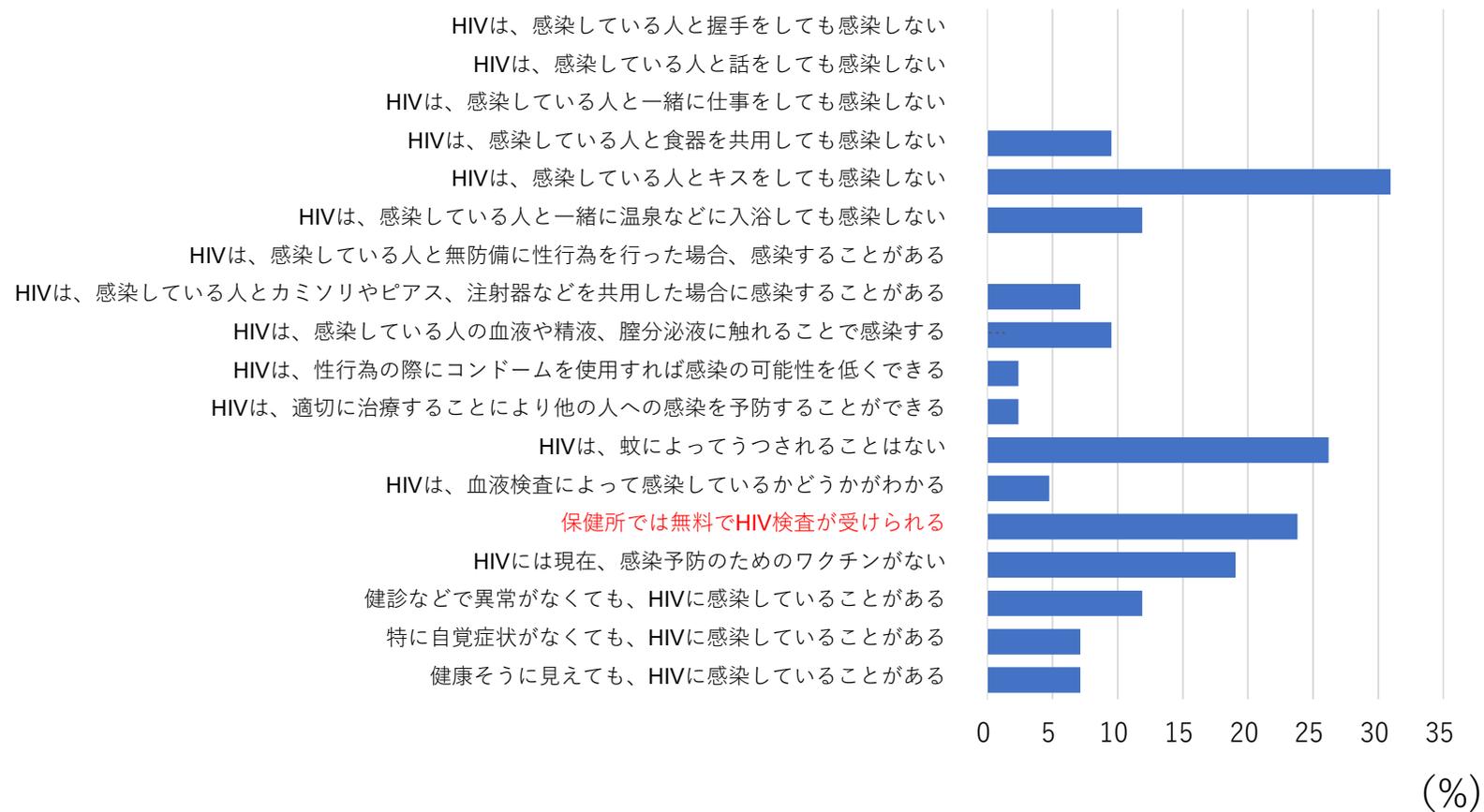
会社の健診時にHIVの血液検査を実施してほしい  
(費用の負担は考慮しないでお願いします)

⇒「思う」・「やや思う」を入れると受検者の  
72%が健診時のHIV検査を希望。



# モデル事業の結果③知識確認

令和2年度に受検した301人中アンケートに回答があった157人（中間集計）



## まとめ①

- 新型コロナウイルス感染拡大により未治療新患数は減少し判明契機が変化
- 診断後の抗HIV療法の提供体制は整備
- 新しい検査機会の場の提供と検査提供方法の工夫で未受検者が受検



- HIV感染者/AIDS患者届出数の低下とエイズ患者発生数増加の危惧
- 「HIV感染者の90%が感染自認」の目標達成が困難
- 新しい検査機会の提供により生涯未受検率が低下する可能性

# 発表内容

1. 新型コロナ感染拡大の保健所エイズ等検査とエイズ診療への影響
  - ✓ 保健所等でのエイズ等検査への影響
  - ✓ エイズ診療への影響
  - ✓ 愛知県におけるモデル事業の実施結果
2. 新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究について
  - ✓ 背景と目的
  - ✓ 検査提供方法と保健所エイズ等検査との比較
  - ✓ 結果
3. まとめ

令和2年度厚生労働科学特別研究事業

# 新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究

## 【背景】

### 1. 新型コロナウイルス感染拡大の保健所エイズ等検査への影響

新型コロナウイルス感染症対策により保健所エイズ等検査のマンパワーが不足し、受検者及び検査従事者の双方の感染リスクの懸念も加わり、保健所エイズ等検査を縮小・停止している自治体が増加。

### 2. 我が国のHIV感染症/エイズの発生動向と新規感染伝播抑制への課題

新規HIV感染伝播阻止を目的としUNAIDSが定めた90-90-90ターゲットのうち、我が国では最初の90のみが未達成。早期診断・早期治療のためにHIV検査機会提供を増やすことが重要。

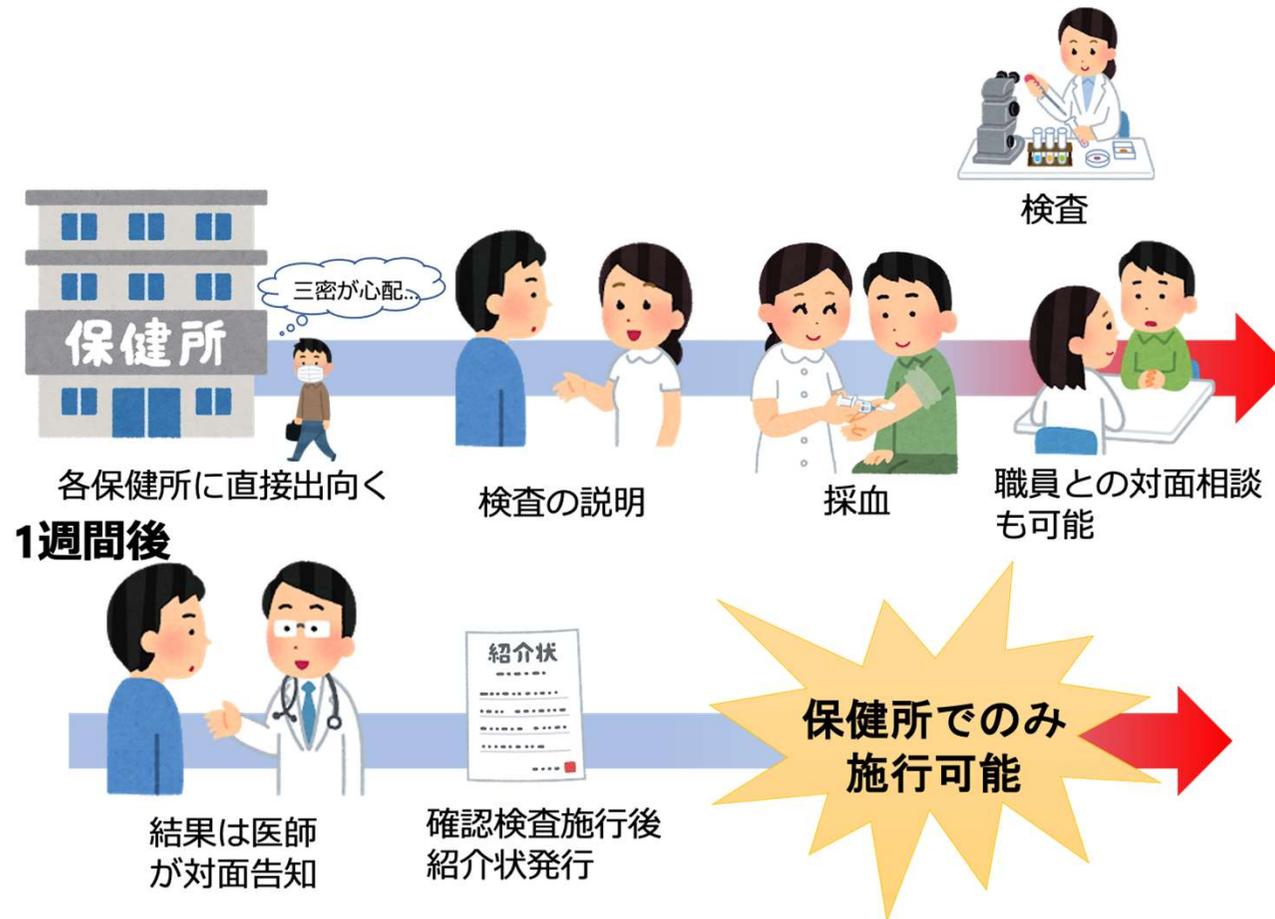
### 3. 保健所HIV検査の現状と課題及び新たな取り組み

近年保健所エイズ等検査の受検者数は漸減傾向で、エイズ予防指針でも対策が求められている。諸外国では様々な検査の利便性向上が図られている。

## 【目的】

- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大下、①適切な飛沫・接触感染対策、②アウトソーシングによる感染リスクの最小化と保健所業務の効率化、③受検者の安全と安心を実現する新しい検査方法を検討・試行し、全国の保健所でも恒常的に実施可能なモデルを提案する。

# 保健所の通常検査



# iTesting（アイテスティング）について

## 【予約から受検】

### 1. 検査申込み

Webで事前予約制（30分で4人）で予約取得者にはID番号を発行し電子予約票を発行

### 2. 受付

検査会場の管理者が入口で受検者のスマートフォンの予約票を確認

### 3. オリエンテーション

職員立ち会いのもとタブレット端末で実施

### 4. 検査の実施

オリエンテーション終了後受検者は郵送検査キットを受取りwebでの結果確認に用いるパスワードを任意に設定し検査申し込み用紙に記入、ランセットを用いて指尖より採血しろ紙に吸収させ梱包

### 5. 受検者アンケートと結果確認方法の確認

予約取得から採血までの過程について、タブレット上でアンケート調査を行い、最後に結果確認サイトアクセスのためのQRコードが記載された用紙やID番号の控えの持参忘れがないことを確認

# iTesting（アイテスティング）について

## 【結果確認と受検者支援等】

### 6. 結果確認サイトへのアクセスとログイン、結果の確認

QRコードから郵送検査キット会社の特設サイトの結果確認画面にアクセスし、検査申込み書に記載されたIDとパスワードを入力して結果を確認

### 7. 要精査・要医療受検者への対応

HIVについては保健所もしくは名古屋医療センターでの確認検査の受検案内し、HBV、HCV、梅毒については、名古屋医療センターもしくは適切な医療機関宛の紹介状（pdf）を発行

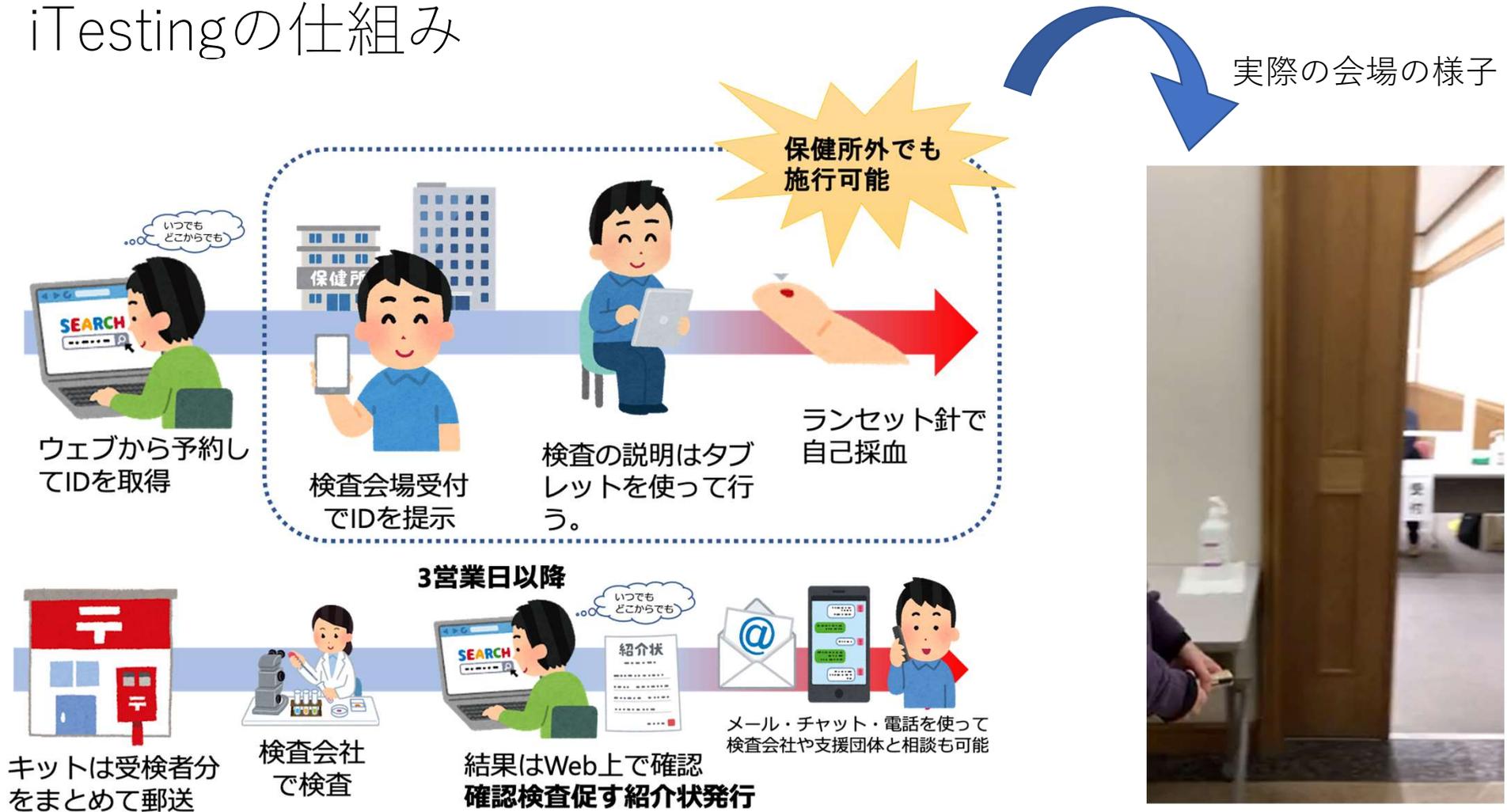
### 8. 検査・受診に関わる相談

郵送検査キット会社の相談システム及びぶれいす東京の相談システム（電話、チャット）が利用可能で、名古屋医療センターでも要精査・要医療受検者に対しては感染症内科で電話相談に対応

### 9. 要精査・要医療受検者の追跡

保健所での確認検査実施、発行した紹介状への返信を以って確認

# iTestingの仕組み



# iTesting（アイテスティング）の実施状況

- 日にち：令和2年12月8日、15日、28日、令和3年1月12日、19日
- 場所：愛知県三の丸庁舎会議室（最寄りの地下鉄駅から徒歩5分）
- 対象：愛知県在住もしくは県内に通勤・通学している16歳以上の方
- 検査項目：HIV感染症/エイズ、梅毒、B型肝炎、C型肝炎



名古屋医療センター

ホーム | 予約前の注意事項

## iTesting

三密を避けて性感染症の検査をもっと気軽に安全に。

本研究は愛知県に在住または就労されている16歳以上の方を対象にしています。  
現在住んでいる住所または就労している場所の住所の郵便番号の始めから3桁を入力してください。

送信 >

(例：郵便番号460-0001なら「460」と入力)

郵便番号入力で  
受検資格確認

# iTestingの結果①受検者背景

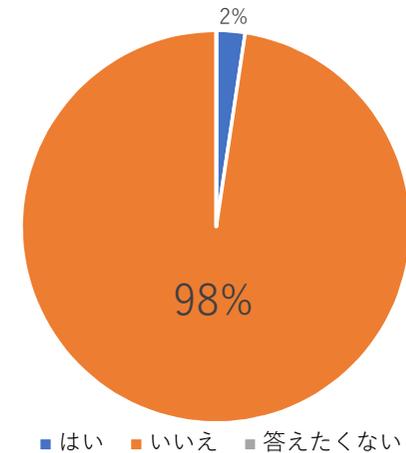
令和2年12月受検42名 受検者平均滞在時間22分

性別,n(%)	
男性	32(76.2)
女性	10(23.8)
年齢(歳)	
中央値 (range)	35.5(19-67)
同居,n(%) (複数回答)	
ひとり暮らし	14(33.3)
夫・妻	17(40.5)
パートナー・恋人	1(2.4)
友人	1(2.4)
子	11(26.19)
父母	9(21.4)
祖父母	9(21.4)
兄弟	3(7.1)
その他	0(0)

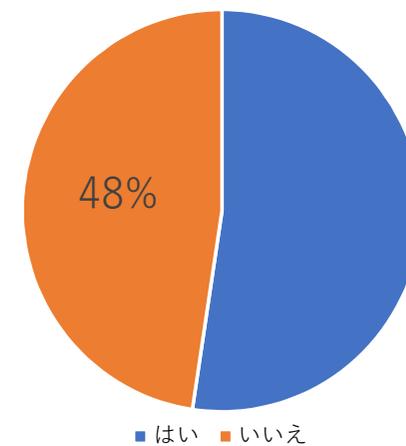
## iTestingの結果②アンケート結果

これまでにあなたは本プログラム(本研究)を利用したことがありますか。

⇒「はい」はiTestingを2回受検したのではなく、誤回答の可能性

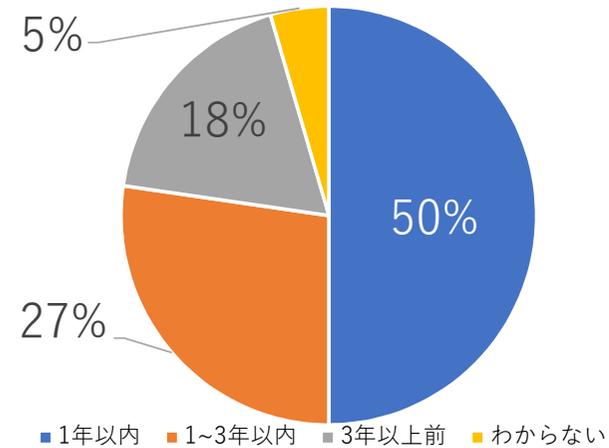


これまでにあなたは本プログラム(本研究)以外でHIVの血液検査を1度でも受けたことがありますか。  
⇒48%が人生初のHIV検査



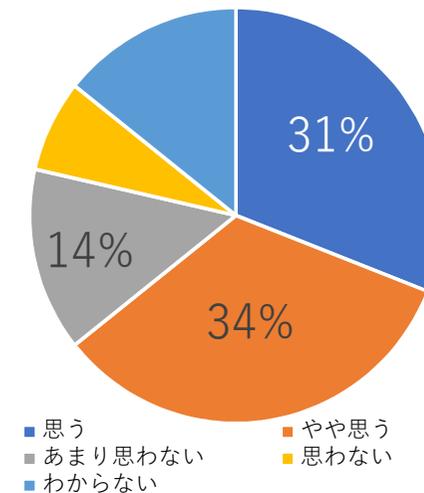
あなたが本プログラム(本研究)以外で  
HIVの血液検査を直近で受けたのはいつ頃ですか。  
(前問で「はい」と回答した人のみお答えください)

⇒半数は毎年定期的に受検している。

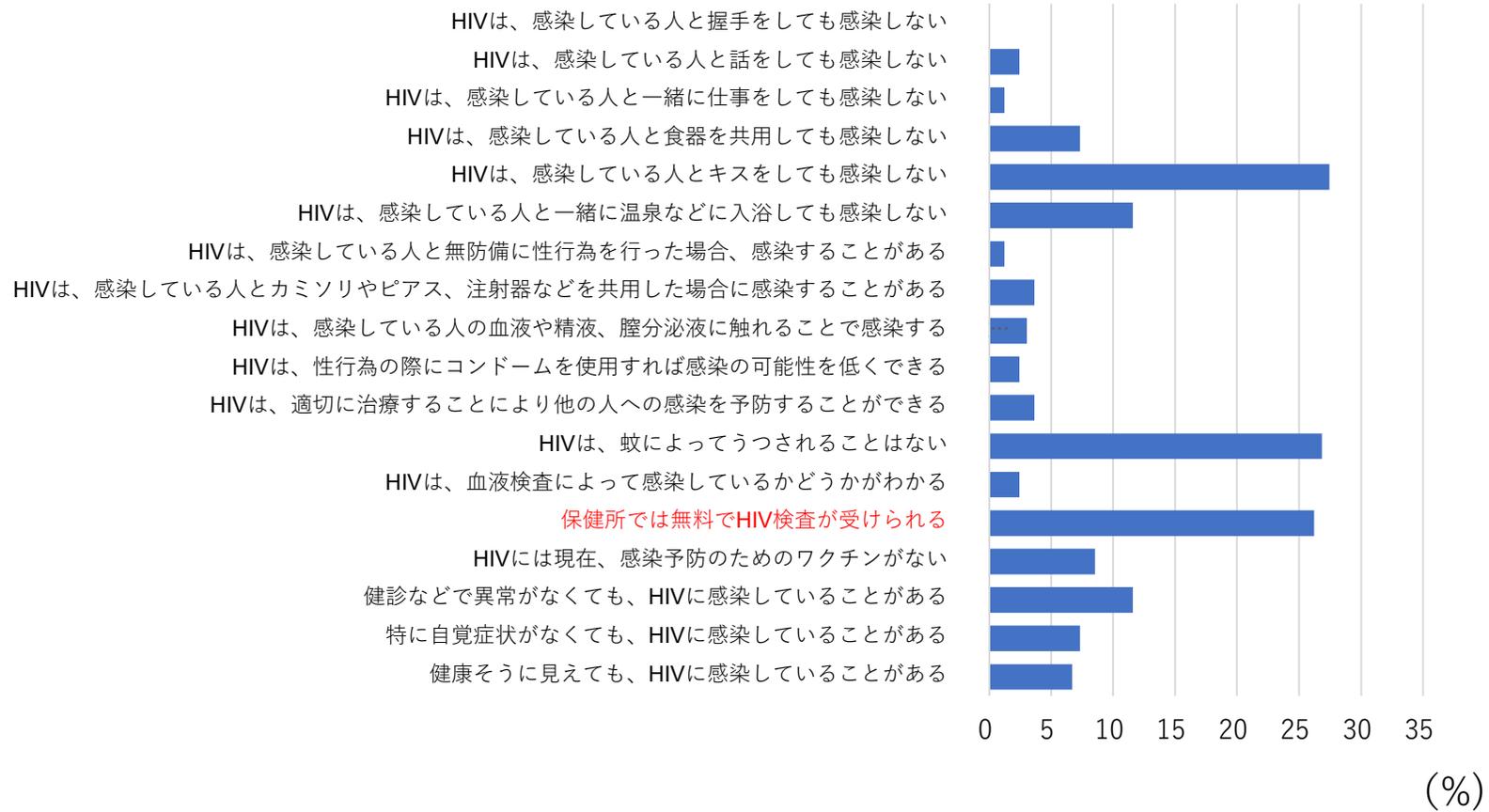


会社の健診時にHIVの血液検査を実施してほしい  
(費用の負担は考慮しないでお願いします)

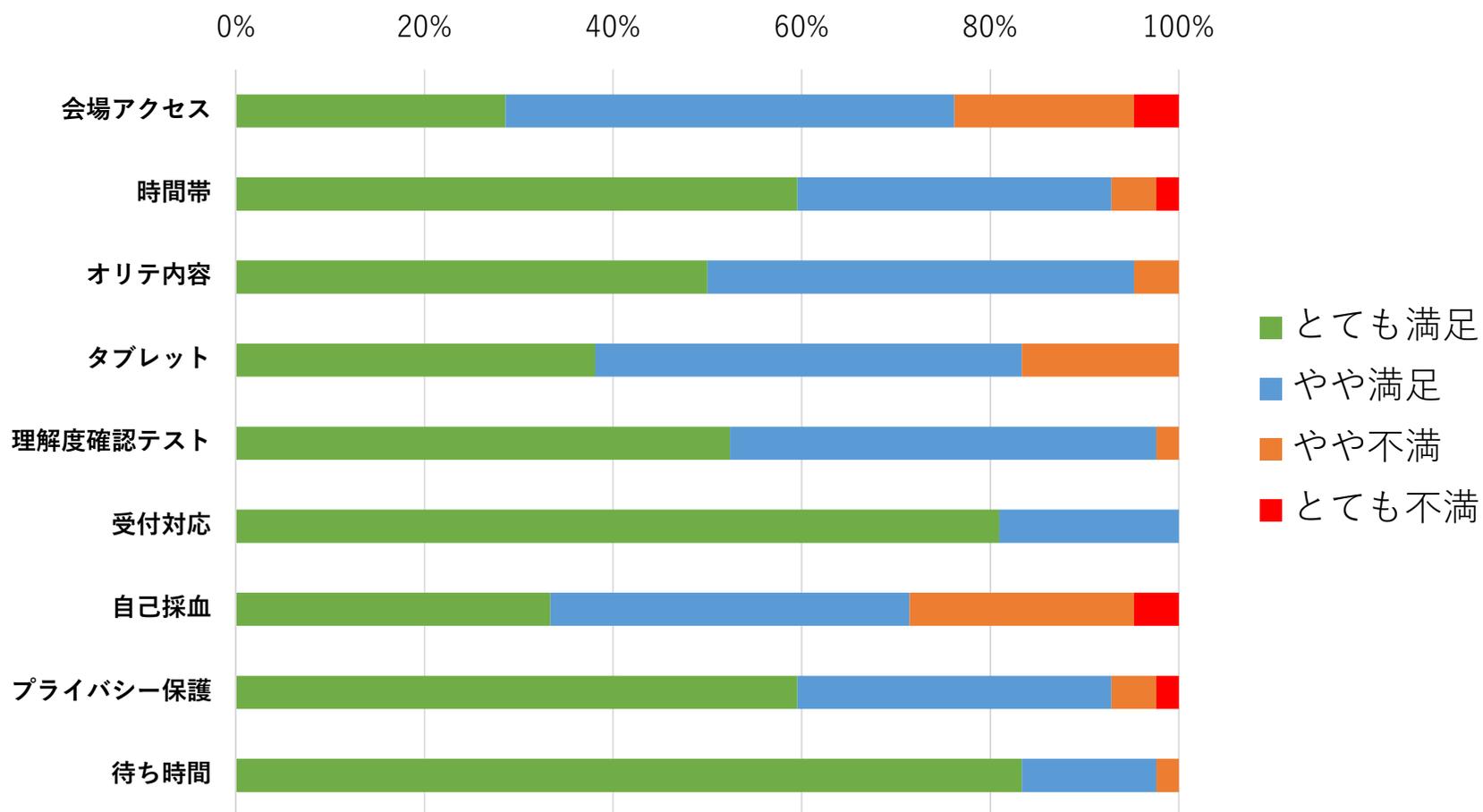
⇒「思う」・「やや思う」を入れると受検者の  
65%が健診時のHIV検査を希望。



# iTestingの結果③知識確認



# iTestingの結果④iTestingに対する感想



## iTestingの結果④iTestingに対する感想（自由記載）

- 大変良かった。
- 必要な血液量がもうすこし少ないとよい。
- タブレットの次へのボタンが何回か押さないと反応しなかった。この検査会があまり認知されていないので積極的にアピールした方が良いと思う。
- 全てに自宅での作業でなければ、自己採血よりも看護師による採血が楽。
- 携帯の電波が地下で届かない
- はじめてだと先生の助けがないと自分ひとり採血するのが難しく感じました。

## まとめ② 結果

1. 飛沫・接触感染リスクを低減した検査方法の確立  
予約システムの導入、タブレット端末等を利用した検査オリエンテーション、郵送検査キットの利用で受検者と検査従事者の接触機会は著減する。
2. 少ないマンパワーによる効率的な保健所検査方法の確立  
保健師、看護師、医師等の多くのマンパワーが必要であったが、最小で見守り職員1名で実施可能である。
3. 施設や設備に制限なく実施可能なHIV検査機会提供  
例えば郵送検査キットの使用により採血等行為が認められた施設において検体処理と検査の設備がなくても実施可能で、検査場所の設定の自由度が高まる。

## まとめ② 期待される効果

1. 外的要因の影響の最小化による保健所検査体制の維持  
特別な施設・設備を要せず、外部委託によるコスト抑制も可能であることから、今般のような状況下でも保健所検査の休止期間の最小化と検査体制再構築を可能にする。
2. 業務の効率化と質の向上による保健所検査の受検者増加  
確認検査を要する受検者対応への人的資源の集中により確実な医療機関への橋渡しが可能になる。またより安全安心な検査体制を確立することができ、受検者数も増加も期待される。
3. HIV検査等の提供機会の増加による新規発生届出の減少  
HIV status の確認機会の増加による早期発見・早期治療が可能となり、新規発生届出数の減少とエイズ発症阻止につながると見込まれる。

# 発表内容

1. 新型コロナ感染拡大の保健所エイズ等検査とエイズ診療への影響
  - ✓ 保健所等でのエイズ等検査への影響
  - ✓ エイズ診療への影響
  - ✓ 愛知県におけるモデル事業の実施結果
2. 新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究について
  - ✓ 背景と目的
  - ✓ 検査提供方法と保健所エイズ等検査との比較
  - ✓ 結果
3. まとめ

# 保健所エイズ検査における結果通知の現状

エイズ対策政策研究事業「HIV検査受検勧奨に関する研究」班  
「保健所におけるHIV検査・相談の現状評価と課題解決に向けての研究」

- 対象
  - ✓ 保健所（562施設）及び特設検査相談施設（22施設）
- 調査対象期間
  - ✓ 平成29年1月～12月の各施設の状況
- 方法
  - ✓ 平成30年1月に郵送アンケート調査を実施
- 結果の概要
  - ✓ 保健所等562施設中491施設(回収率87%)、特設検査相談施設22施設中21施設(回収率95.5%)から回答
  - ✓ 保健所等施設では迅速陽性の場合83.7%、確認陽性の場合99.1%で医師が検査結果説明を担当
  - ✓ 陰性の場合、保健師が結果説明を行うという回答が多い
  - ✓ 特設検査相談施設においては、陰性例でも75%以上で医師が検査結果説明担当

# 保健所エイズ検査の結果説明時の担当者(複数回答)

## 保健所 (n=490)

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	記入数							
医師	209	43.3%	287	83.7%	263	63.4%	454	99.1%
保健師	327	67.7%	191	55.7%	253	61.0%	239	52.2%
看護師	30	6.2%	9	2.6%	14	3.4%	11	2.4%
検査技師	25	5.2%	13	3.8%	17	4.1%	14	3.1%
その他*	32	6.6%	17	5.0%	19	4.6%	55	12.0%

## 特設検査相談施設 (n=21)

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	記入数							
医師	15	75.0%	14	93.3%	12	75.0%	18	100%
保健師	3	15.0%	2	13.3%	2	12.5%	2	11.1%
看護師	2	10.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	5.6%
検査技師	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他*	7	35.0%	5	33.3%	6	37.5%	7	38.9%

\*カウンセラー等

## 郵送検査キット活用の利点と課題

- 郵送検査キットの利用により、
  - ✓プライバシー配慮下のHIV検査機会提供が可能
  - ✓HIV検査提供の機会を拡大
  - ✓生涯受検率向上の可能性
- 郵送検査キット利用時の課題は、
  - ✓個人の健康情報の確実な保護
  - ✓検査会社と医療機関・保健所との連携
  - ✓受検者に対する相談・支援体制の充実

## エイズ・性感染症の検査機会の維持・増加のために

- エイズ・性感染症発生抑制に保健所での無料匿名検査機会提供維持は重要
- 外部委託等により業務負担軽減と多様な受検ニーズの充足が可能
- 普及啓発を主な目的とした検査機会提供のあり方の検討も重要



以下のシステム構築は有用な可能性

- ✓ 外部委託等、保健所職員の負担軽減や保健所検査の利用機会拡大を目的とした取組の支援
- ✓ 外部検査機関等の精度や個人情報管理体制の評価
- ✓ 保健所外施設で保健所検査と同等の質が担保された検査機会の提供